1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070200876		
法人名	医療法人社団 醫光会 ケアピース		
事業所名	グループホーム めだか		
所在地	群馬県高崎市上豊岡町 896-1		
自己評価作成日	令和4年8月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

めだかでは二か月に一度、地域のボランティアの方に「茶道」「華道」を教えに来ていただいています。また一か月に一度「書道」を教えていただき、全国書画展覧会にも出展していましたが、新型コロナウイルスにより中止となってしまいました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個々の行動の原因を探り、個別のケアに活かしている。例えば、利用者が、食事の時に目の不自由さを感じる行動をみて、眼科受診を促しその結果白内障の診断で手術を受け、その後生活に不自由さがなく食事が問題なく摂取できるようになるなど、きめ細かな支援を行っている。年2回職員と面接を行い、要望や希望を聞く機会を持ち、職員の自己目標・自己評価を提案する等の機会を設けて、運営改善に繋げている。食事は、外部業者による献立・食材の提供がある中、職員が昼夜別に食材の彩りや食事内容の感想等を「パレット給食簿」に記載し、1ヶ月まとめて法人に提出するシステムを取り、法人内の各ホームからの意見・感想等を法人から業者に提案し、改善に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	めだかの理念として「心をつなぎ合い支え合いその人らしい生活を楽しめるよう支援します」を掲げ職員と共有して利用者様のケアを実践しています	法人の理念とホームの理念があり、法人がホームを立ち上げた時に、ホームの理念を職員参加で作成している。理念の言葉一つ一つを噛み砕くことはないが、共有の機会として、一日の流れや申し送りの中で確認している。	理念について、項目ごとの意味を絞り、意見交換を行うなど、掲げている個々の言葉の意味を確認する機会を検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が月に一度来訪され、書道を指導してくださり、二か月に一回華道、茶道を指導して頂いていましたが、新型コロナウイルスにより中止しています。	地域の方の協力で、お茶は月に1回、お花・書道は2ヶ月に1回の指導があったが、コロナ禍で中断している。立ち着いたら、再開を予定している。立地条件上、地域住民との直接的な交流は難しいが、行事等を通して地域と利用者が楽しめる実践活動を工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの拠点として二か月に一度の運営推進会議が開催できないため、地域の方々に認知症の人に対する理解、接し方等をレポートにして配布しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が中止のため、行事報告、利用者様、職員の状況報告、研修会参加報告等行っています。	運営推進会議はコロナ禍で中止中であるが、会議参加者には、報告書として「めだか新聞」を添えて送付している。面会時等に、家族から年間の行事内容を聞かれる方もおり、家族とのコミュニケーションを大切に、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議の報告をしていますが、日常的にはあまり交流していません	市へは、ケアマネージャーが隣接のグループホーム3ヶ所の報告書等を、直接出向いて提出を行なっている。介護度の変更など、運営内容に係ることは、直接、市へ連絡するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望者もいるため、玄関の施錠を行っていますが時間で解錠できるようにしたいと思っています	帰宅願望の方が複数いて、離苑の危険性があり、現在は玄関の施錠を行っているが、種々の状況を確認しながら開錠を検討している。法人内の研修会は、コロナ禍で困難なため、法人から「身体拘束しないケア」等の資料の提供があり、各自が感想文を提出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待に関する新聞やニュースを回覧、その都度、話題に取り上げ防止について話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当ホームでは利用されている方はありませんが、個々に介護福祉士等の勉強で学び、制度の必要性を把握しております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時にはご家族様に十分な説明を行い抱えている不安、疑問に答えて理解し、納得して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、来訪時にお話しを伺ったりし、その内容を職員で共有し、部署会議などで発表しています。	入居時に、意見箱や苦情時の申し出について、説明を行なっている。現在の面会時間は10分位であるが、家族からの思いや要望等を確認し、申し送りノート等で職員間で共有している。	事業所側から運営について具体的に投げかけて、忌憚のない意見聴取が図れるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議で運営に係わることを提案し、職員間で話し合い決めていきます。	毎月の管理者会議とともに、各部署会議で職員からの意見・要望を話し合う機会がある。日常業務の中でも聴取しているが、主に物品購入の要望が中心となっている。法人は、年2回の個々の職員への「業務能力適格性評価」を実施し、自己評価を行うことで、スキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が目標を決め、やりがいを持って業務が遂行できるように給与水準、労働時間、職場環境の整備に努め、職員個々の実績を把握し評価をしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員個々のケアの力量を把握し法人内の研修や外部の機械を確保して職員のケアの向上を指導してはいたしましたが、コロナ禍のため研修が出来ず、研修の情報を配付し報告書の提出することで職員個々のケア向上を指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連携協議会の定例会に参加をしたり同系列の事業所の職員と相互訪問する機械を作りサービス向上に努める取り組みをしてはいたしましたが、コロナ禍のため中止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前には必ず面接を行い本人様の困りごと、要望、質問等を伺い納得、安心を得る関係作りに努めております。また意思を伝えられない方には、ご家族様と話し合いその方ができる限り望むように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様とサービスを開始する前には必ず面会を行い、困りごと、要望、質問等を伺い納得、安心を得る関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先する支援を見極めて、他のサービスを検討し、説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の能力に応じて洗濯物たたみ、テーブル拭き、枕カバー交換等を一緒に行って協力して暮らしている関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	めだか便りやケアピース便りを配信したり、電話にて本人様の状態、様子等を報告、相談して、ご家族様にも積極的に支援に参加していただけるように心掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にはこれまでご本人様が使用してきた家具を置いたり、ご家族様の写真を掲示して関係が途切れないように心掛けております。	利用者の生活歴と共に、着付けや編み物などの趣味も把握することで、本人が不安にならない支援に努めている。コロナ禍前は受診などの時に家族と食事の機会を持たた方もいたが、現在は写真を見たり、馴染みの家具等で思いをつないでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでは懐メロの歌などを歌ったり、リハビリ体操をしたり、また気分転換を図るために散歩を兼ねた外気浴をし、利用者様同士が楽しみ孤立しないよう配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたご家族様や本人様からの要求に対して可能な限り対応させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでは食事、レクリエーションの時間などの時間割がありますが、利用者様の一人ひとりの意向や希望を尊重し、その方に合った支援を行っております。	利用者の殆どの方が、意思表示ができるので、その日の反応を観察しながら、リハビリや音楽体操を行なっている。腰痛を訴え体操を希望しない利用者や気の乗らない方もいるので、強制せず個々の思いを尊重した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、利用者様の生活歴や環境、病歴サービスに至るまでの情報等を全職員の共通認識のもとで対応しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の個々の能力に配慮してその方に合った支援に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が快適に暮らせるように本人様やご家族様等と課題解決に向けてケアのあり方を意見交換し、アイデアを出し合って介護計画を作成しております。	ケアマネージャーが申し送りに参加し、日常の利用者の状況を自ら把握し、担当者からの情報収集を行い、アセスメントを行っている。短期目標は3ヶ月・長期目標は6ヶ月で計画は見直しを行っている	職員が利用者の状況を把握し、共有するためにも、カンファレンスを実施し、一貫した記録が行えるよう、検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの実施、気づきや特記事項などを記録して職員間で共有し感じた事を話し合っています。またそのことを介護計画の見直しに反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様個々のニーズに柔軟な対応が出来るようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在ではほとんど地域資源の活用はしていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、かかりつけ医の移行を伺い納得を得た医療機関を利用されています。原則として家族対応ですが状況によりご家族様と病院で待ち合わせて、職員が説明し適切な処置や治療が受けられる様支援しております。	ほとんどの入居者が、協力医に受診している。皮膚科や歯科の希望があれば、往診は可能である。急な受診の際は、家族と待ち合わせて職員が日常の様子を伝え、適切な治療が受けられる支援を行っている。訪問看護は週1回あり、24時間対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者は日常気づいたことや情報を週一回訪問する看護師に報告したり、看護師に伝達されたことを共有し、利用者様の受診に繋げるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院されたときは、病院関係者と情報交換しています。また面会に行き関係者に会い相談して関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に係わる書類の説明をし署名をして頂いておりますが、グループホームでは限界がある旨も理解して頂いております。主治医、訪問看護師と連携して、ご家族の意向を取り入れております。	最近末期がんの利用者の看取りを、経験職員が対応した。訪問看護と協力医が連携の下、看取り対応を行うなかで、特に看取り対応時の職員の不安解消の必要性を感じている。	終末期のケアとして、経験値だけの判断ではなく、不安なくケアが実践できるように看取り手順のマニュアル化などを検討することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍のため普通救命講習や、緊急時対応勉強会が中止となっておりますが、新人以外の職員は講習や勉強会は受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定した防災避難訓練を、関東保守防災さん立ち合いのもと、消防署に通報し指導して頂き実施しています。	今年は消防署の参加はないが、消防設備の会社による通報や消火器の使用訓練を行った。法人の指示で、隣接するグループホームと協力し実施している。夜間の訓練は、ヘッドライト・ランタン・懐中電灯の用意があり、避難場所は玄関に統一している。備蓄は法人で準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し言葉使いでは失礼のないよう指導しています。失禁した場合なども自尊心に配慮した対応を心掛けております。	入居時に、家族に呼称の確認を行い、「親しき中にも礼儀あり」を意識して、言葉遣いには気をつけるよう指導している。法人で接遇研修を行い、利用者に関わる時には自尊心を傷つけないように配慮している。例えば、トイレや入浴時の誘導には、特に気をつけた対応を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の思いや希望を発言でき、自己決定できるように日頃からコミュニケーションを図り意思決定をして頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、個々のリズムやペースを大切に、体操やレクリエーション等は無理強いせず、利用者様の意思決定を尊重しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のその日の好みで自由に楽しんでおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理は職員が行っていますがイベント時のおやつ作りなどは利用者様に作っていただいております。	業者から、メニューとレシピが食材と一緒に届き調理している。昼・夜調理した内容を検食簿に記入し、評価したものを法人に提出して、業者との意見交換に活用している。おやつ作りや、テーブル拭きは、利用者と職員が一緒に行う等の支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食、夕食は外部業者によるメニューにて栄養バランスを行っています。量や好みなどは個々に合わせて対応しています。水分、食事摂取量は記録に残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度は歯科衛生士の指導により口腔ケアの管理を行っております。利用者様のできる方は見守りを行い、出来ない方は職員が介助を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて時間と量を記録してあるので個々の排泄パターンを把握してトイレでの排泄支援を心掛けています。	排泄チェック表に基づいて、トイレ誘導を行っている。利用者はパットやリハビリパンツを使用し、職員は利用者個々の状況を把握して、自立排泄にむけて支援している。パットやリハビリパンツの変更があれば、家族と詳細を話し合い、齟齬のないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し便秘薬の調整や、運動、水分量、食事量、医療連携して対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月曜から土曜まで沸かし、原則週2回ですが、利用者様の要望によりいつでもは入れる体制にしております。	入浴は原則、週に2回を予定しているが、本人の希望や、汚染等ある場合は適宜入浴支援は行っている。入浴時は職員は衣類の着脱と入浴介助と2人体制で支援している。入浴時は会話も多く楽しみながらの入浴を実現している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣を大切にして、一人ひとりに合った自分のリズムで生活して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理サービスの提供により薬剤師が個々に使用している薬を把握し分別しています。職員が確認し利用者様に服用して頂いています。別の職員が内服確認と飲み忘れ等ないかWチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴、好みのもの、習い事などを本人、ご家族から聞き把握して能力に応じることなどを提供し本人の楽しみになるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出行事も中止のため、気分転換に苑庭の花見学をしています。短い時間ですが利用者様には好評です。	コロナ禍で遠方への外出は困難な為、法人の敷地を利用して、散歩しながら花を見るなど、季節を感じてもらっている。限られた環境の中ではあるが、ベンチに腰をかけて歌を唄ったりしている。受診ついでに家族と一緒に外食する利用者もいるなど、個々の利用者にあった、工夫された支援が実践されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針で利用者様の現金は管理、所持出来ないことになっていますが、希望を伺い職員が買ってきます。利用者様の外出は今は禁止のため一緒に買い物に出かけられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話や手紙の要望があればその都度対応しております。利用者が携帯電話をもっている方もいました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物や手作りの掲示物、ホールにはイベントの写真、季節の壁面制作を飾り快適に居心地よく生活できるよ宇、工夫を心掛けております。	玄関には、事業所の理念や既定の掲示物が整理されている。廊下は広く、利用者の作品等が飾りつけられている。廊下から見える食堂は明るく、感染対策で間隔を開けて居心地良く過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで気の合う利用者様が自由に談話したりテレビをご覧になっています。また個々の個室で自由にすごしたり、テレビを見たりされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には馴染みの家具を持ってきていただいたり、ご家族の写真を貼ったり、また布団で寝たいとの希望者では布団対応で居心地よく過ごせるよう支援しております。	居室の清掃は、職員と利用者で行っている。各居室には出窓があり、縫いぐるみや時計・位牌がおかれたり、炬燵を置きその上には湯のみなどが置かれ、自宅の延長のような環境になっている。壁には、塗り絵や事業所での賞状などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面バリアフリーで手すりが設置、トイレは広く車いすの型でも自由に使用でき、安全でかつ出来る限り自立した生活が送れるように工夫しております。		